

諏訪の景気動向

平成19年11月

(平成19年10月末 D・I調査)

平成19年11月16日
岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

経営相談室

諏訪地方の景気動向（平成19年10月末）

「平成19年10月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」
※D I：業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値

諏訪地方201社のご協力を得て行った10月末の「景気動向調査（D I調査）」では、回答全社の業況判断D Iは $\Delta 4.0$ で、前回調査時（平成19年7月末）の2.5からマイナスに転じ、業況感は幾分弱含みとなっている。

製造業の業況判断は、「好転」16.1%、「悪化」21.5%で業況判断D Iは $\Delta 5.4$ と前回調査時の $\Delta 4.6$ から0.8ポイント後退した。

規模別の業況判断D Iは、従業員数「100人以上企業」は13.8で前回の3.3から10.5ポイント回復しているが、「30人～99人企業」 $\Delta 12.2$ 、「1人～29人企業」 $\Delta 8.5$ と前回より悪化しており、企業規模により業況が分かれている。

業種別の業況判断D Iは、輸送用機械20.0、精密機械10.5と2業種で好転企業が多いものの、金属製品 $\Delta 23.5$ 、電気機械 $\Delta 13.8$ 、一般機械 $\Delta 7.1$ と業種によって業況が分かれている。

受注状況D Iは全体で $\Delta 4.7$ と前回調査から0.8減少しており、「3ヶ月後」の受注予想D Iも $\Delta 9.6$ と受注減少を予想する企業が多くなっている。主要5業種の受注状況D Iは「3ヶ月前比」 $\Delta 5.7$ と受注が減少した企業が多くなっており、「3ヶ月後予想」も $\Delta 9.2$ と厳しい見方が多くなっている。業種別では輸送用機械、精密機械に順調な企業が多い。

ヒアリング調査では、デジタル一眼レフカメラ関連企業や自動車関連企業で引き続き堅調な見通しがきかれた。情報機器やデバイスなどの電気機械関連企業には、メーカーの在庫調整の進展から先行きに期待感があるものの、アメリカなど欧米のクリスマスセール動向や為替相場の動きに注視しているとの声もきかれた。

地域製造業全体の動向は、業況判断D Iは $\Delta 5.4$ で「横這」とする企業が62.4%あるものの、「前年同期比」では「悪化企業」が40.8%みられることから、地域製造業全体としては昨秋以降の弱含み傾向が続いている。

商業は、日中の気温が高く秋の季節感が遅れたことから、衣料品は低調な売れ行きだった。大型店で来店客数が幾分増えた店舗がみられたものの、客単価は低下している。食料品は、需要に変化は見られないものの商品価格が低下しており、売上げが減少したところが見られる。家電店は、運動会シーズンを迎え、デジタルカメラやビデオカメラの売れ行きを伸ばしたところがみられた。商業全体での業況判断D Iは $\Delta 5.9$ で「横這」とする店舗が多いものの、ヒアリングからは今後の物価上昇が消費へ影響を及ぼすと懸念する声が聞かれた。

観光は、天候にも恵まれ宿泊客数を伸ばしたところが多く、「前年同期比」の業況判断D I 30.0、宿泊客数D I 40.0と高水準になっている。一方、客単価D Iは「前年同期比」 $\Delta 10.0$ 、「3ヶ月後の予想」 $\Delta 35.0$ となっており、客単価の引き上げが課題となっている。

建設業の業況判断D Iは△6.7と水面下であるものの、前回調査時より1.0ポイント改善した。また、前年同期比の業況判断D Iは△13.3であり、3ヶ月後の予想については「横這」とみる企業が73.3%みられる。

雇用状況は、9月の諏訪地方（諏訪職安・岡谷職安合算）の有効求人倍率は1.49倍と平成15年10月から48ヶ月連続して1倍台を維持しており安定している。

新規求人は、諏訪・岡谷職安合わせて1,573人と前年同月比△7.9%減少している。また、新規求職者数は769人で前年同月比△0.9%減少している。

回答全社の収益性D Iは、前回調査比6.1ポイント改善したものの依然水面下の△11.6となった。

非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）は、気候の影響もあり収益性D Iは△3.8とマイナスに転じた。製造業の収益性D Iは△14.4ポイントで、小規模企業ほど厳しい状況となっている。

業況判断DIの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社（201社）の「3ヶ月前比」の業況は、好転とする企業が16.9%、悪化とする企業が20.9%で業況判断DIは△4.0と前回調査時の2.5から後退しマイナスに転じた。

製造業の業況判断DIは△5.4で水面下にあり、前回調査時の△4.6から0.8ポイント後退した。主要5業種の業況判断DIは、輸送用機械20.0、精密機械10.5とプラスとなっているが、金属製品、電気機械、一般機械の3業種の業況は悪化した。

非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）全体での業況判断DIは0.0で、前回調査時から23.5ポイント後退した。観光は天候に恵まれたこともあり「好転企業」が30%みられるが、商業は天候の影響を受け衣料品などが低調だった。

産業別業況表

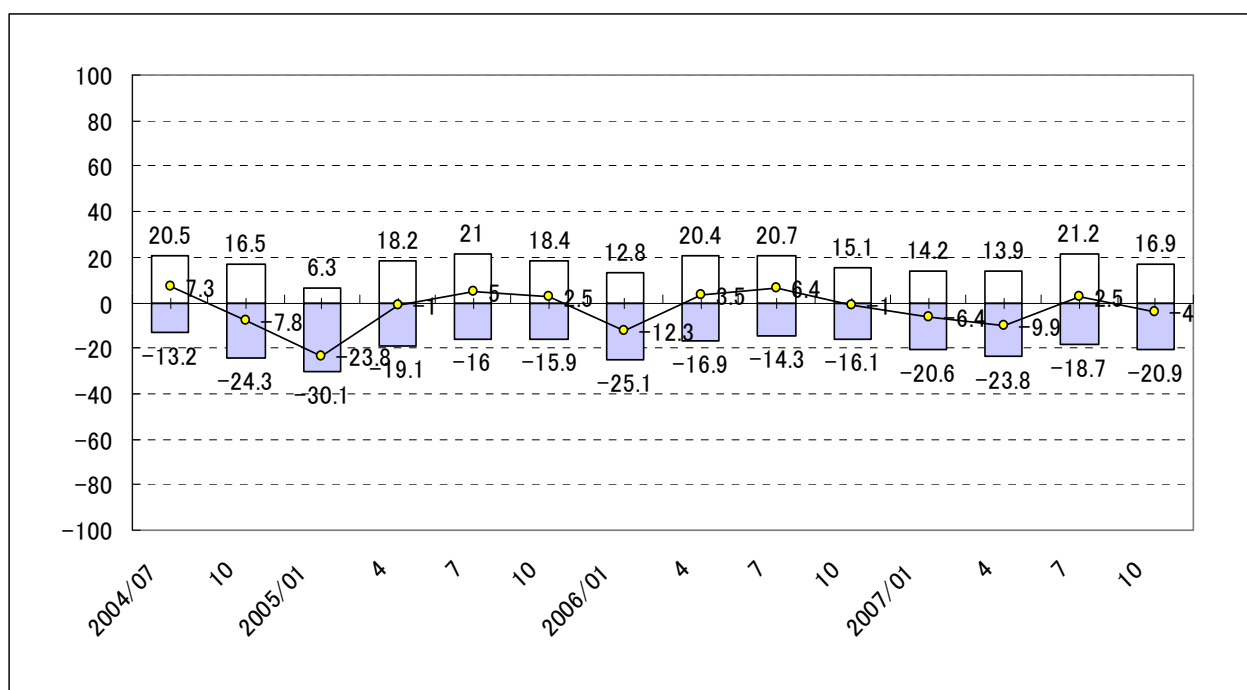
（企業数・%）表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	201	16.9	62.2	20.9	-4	199	20.1	43.2	36.7	-16.6	198	11.1	64.1	24.7	-13.6
製造業	149	16.1	62.4	21.5	-5.4	147	16.3	42.9	40.8	-24.5	146	11.6	65.1	23.3	-11.6
非製造業	52	19.2	61.5	19.2	0	52	30.8	44.2	25	5.8	52	9.6	61.5	28.8	-19.2
商業(大型店)	17	11.8	70.6	17.6	-5.9	17	23.5	47.1	29.4	-5.9	17	5.9	64.7	29.4	-23.5
建設業	15	13.3	66.7	20	-6.7	15	13.3	60	26.7	-13.3	15	13.3	73.3	13.3	0
観光・サービス	20	30	50	20	10	20	50	30	20	30	20	10	50	40	-30

自社業況判断DIの推移

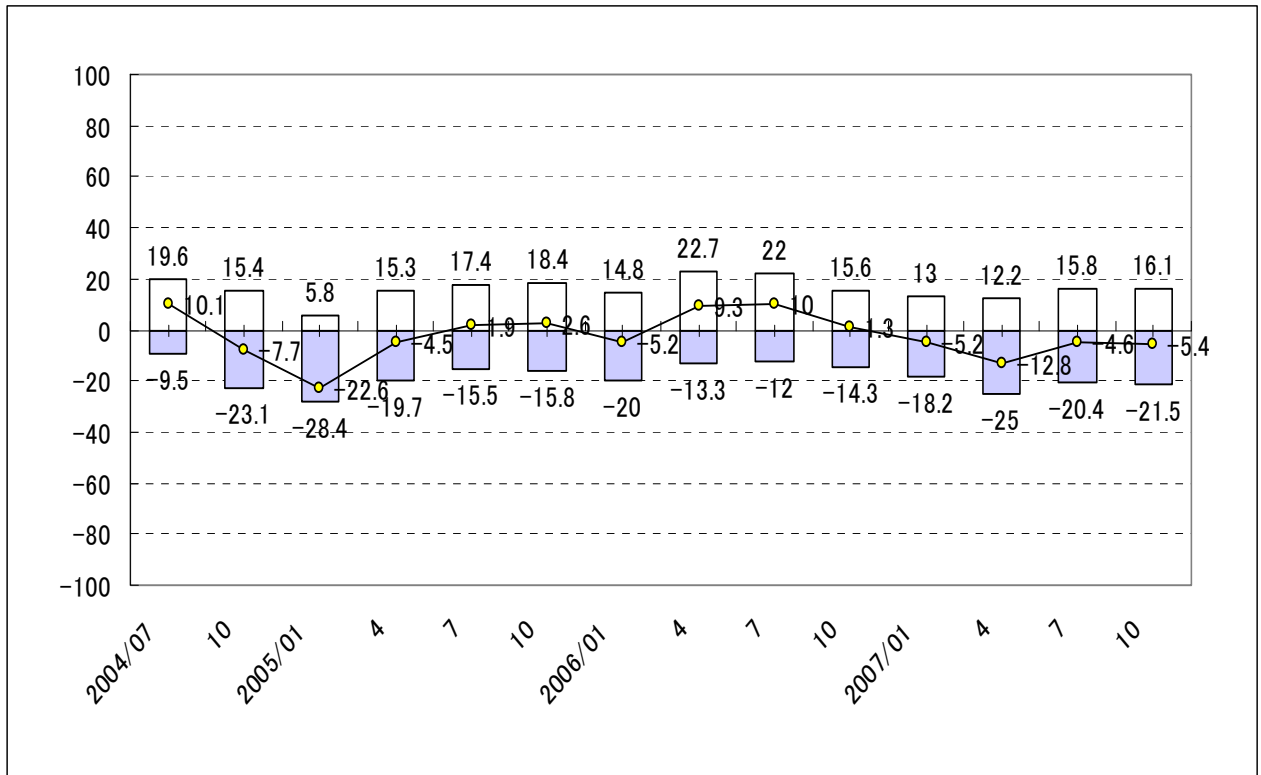
●回答全社：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-1



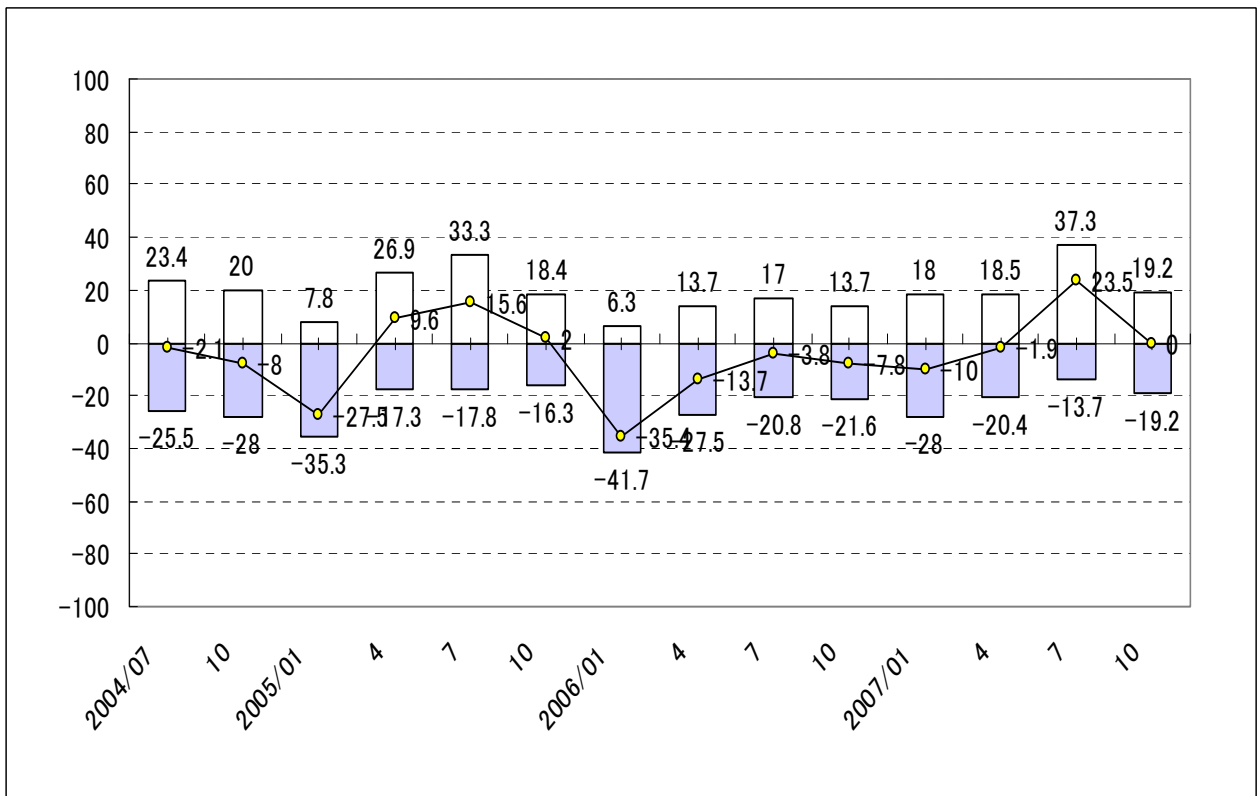
●製造業：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-2



●非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-3



産業別景気動向

1. 製造業

製造業の業況判断DIは△5.4と前回調査時の△4.6から0.8ポイント後退している。

主要5業種の業況判断DIは、輸送用機械 20.0、精密機械 10.5とプラスとなっているが、金属製品など他の3業種はマイナスとなっており業種により業況感に温度差がみられる。

収益性DIは△14.4で前回調査時の△25.0から10.6ポイント改善したが、原材料・燃料等の高止まりや更なるコストダウン要請などから依然として水面下となっている。

規模別の業況判断DIは、3ヶ月前と比べ「100人以上企業」13.8に対し「30人～99人企業」△12.2、「1人～29人企業」△8.5と規模による差がみられた。

業況予想DIは、「横這」とする企業が多いものの「悪化」とみる企業が23.3%みられ、業況予想DIは△11.6となっている。規模別では、「1人～29人企業」△13.0、「30人～99人企業」△10.2、「100人以上企業」△10.7で、企業規模に拘わらず先行き厳しい予想をしている。

地域製造業全体の業況判断DIは「横這」とする企業が62.4%あるものの、前年同期比で「悪化」とする企業が40.8%あり、地域総体の業況は幾分弱含みとなっている。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
製造業	149	16.1	62.4	21.5	-5.4	147	16.3	42.9	40.8	-24.5	146	11.6	65.1	23.3	-11.6	
規模	1～29人	71	15.5	60.6	23.9	-8.5	70	15.7	38.6	45.7	-30	69	13	60.9	26.1	-13
	30～99人	49	12.2	63.3	24.5	-12.2	48	14.6	47.9	37.5	-22.9	49	10.2	69.4	20.4	-10.2
	100～人	29	24.1	65.5	10.3	13.8	29	20.7	44.8	34.5	-13.8	28	10.7	67.9	21.4	-10.7
中分類	金属製品製造業	17	11.8	52.9	35.3	-23.5	16	6.3	37.5	56.3	-50	17	5.9	70.6	23.5	-17.6
	一般機械器具製造業	42	9.5	73.8	16.7	-7.1	41	12.2	41.5	46.3	-34.1	40	10	70	20	-10
	電気機械器具製造業	29	17.2	51.7	31	-13.8	29	6.9	41.4	51.7	-44.8	28	14.3	53.6	32.1	-17.9
	輸送用機械器具製造業	15	26.7	66.7	6.7	20	15	40	53.3	6.7	33.3	15	20	66.7	13.3	6.7
	精密機械器具製造業	19	26.3	57.9	15.8	10.5	19	21.1	47.4	31.6	-10.5	19	0	78.9	21.1	-21.1

①諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

業況判断DIは△23.5で前回調査時の1.1から24.6ポイント悪化している。「3ヶ月後」については70.6%の企業が「横這」としており、弱含みの状況が続くとみている。

●一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など)

業況判断DIは△7.1と前回調査に続きマイナスとなっている。自動車向けなどで安定した受注がみられるが、総体では「3ヶ月後」についても70%の企業が「横這」とみており慎重な見方が多い。

●電気機械（家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど）

業況判断D Iは $\Delta 13.8$ と前回調査時より2.9ポイントマイナス幅が縮小したが、「前年同期比」では $\Delta 44.8$ と悪化した企業が51.7%を占めている。業況予想D Iも $\Delta 17.9$ となっているが、メーカーの生産拠点の海外移転の影響との見方がある。

●輸送用機械（自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など）

業況判断D Iは20.0で好転企業が26.7%みられ、「前年同期比」でも33.3となっており、受注単価に課題を抱えながらも安定した受注に支えられている。業況予想D Iは「横這」とする企業が66.7%と最も多いが、「好転」とみる企業も20%となっている。

●精密機械（時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など）

業況判断D Iは、26.3%の企業が「好転」としており10.5となっている。「3ヶ月後」の業況予想D Iは $\Delta 21.1$ で、「横這」とみる企業が78.9%と多いものの「悪化」とみる企業も21.1%あり慎重な見方となっている。

②他の製造業

食料品工業、プラスチック工業に受注が減少した企業がみられる。

③規模別業況

規模別の業況判断D Iは、「1人～29人企業」は $\Delta 8.5$ で水面下にあるものの前回調査時より5.4ポイント改善した。「30人～99人企業」は $\Delta 12.2$ で、前回調査時のプラスからマイナスに転じた。「100人以上企業」は13.8で前回調査時から4.0ポイント好転しており、企業規模により業況に差がみられる。

業況予想D Iは、全体では $\Delta 11.6$ となっており「横這」とみる企業が65.1%、「悪化」とみる企業23.3%となっており弱含みとなっている。

④受注状況D I（業種別、規模別）

製造業全社(149社)の受注状況D Iは、「3ヶ月前比」 $\Delta 4.7$ 、「前年同期比」 $\Delta 21.6$ となっており減少傾向が続いている。「3ヶ月の予想」は増加とみる企業が16.4%みられるものの、受注予想D Iは $\Delta 9.6$ で引き続き慎重な見方となっている。

規模別の受注状況D Iは従業員規模により差が見られ、「100人以上企業」20.7、「30人～99人企業」 $\Delta 6.1$ 、「29人以下企業」 $\Delta 14.1$ となっている。

主要5業種の受注状況D Iは、輸送用機械、精密機械で増加した企業が多く、金属製品・一般機械・、電気機械で減少した企業が多い。

受注予想D Iは、「増加」と見る企業は輸送用機械で多いものの、他の業種では「横這」とみる企業が多く、地域全体としてみれば受注環境に変化は見られない。

業種別・規模別受注状況表

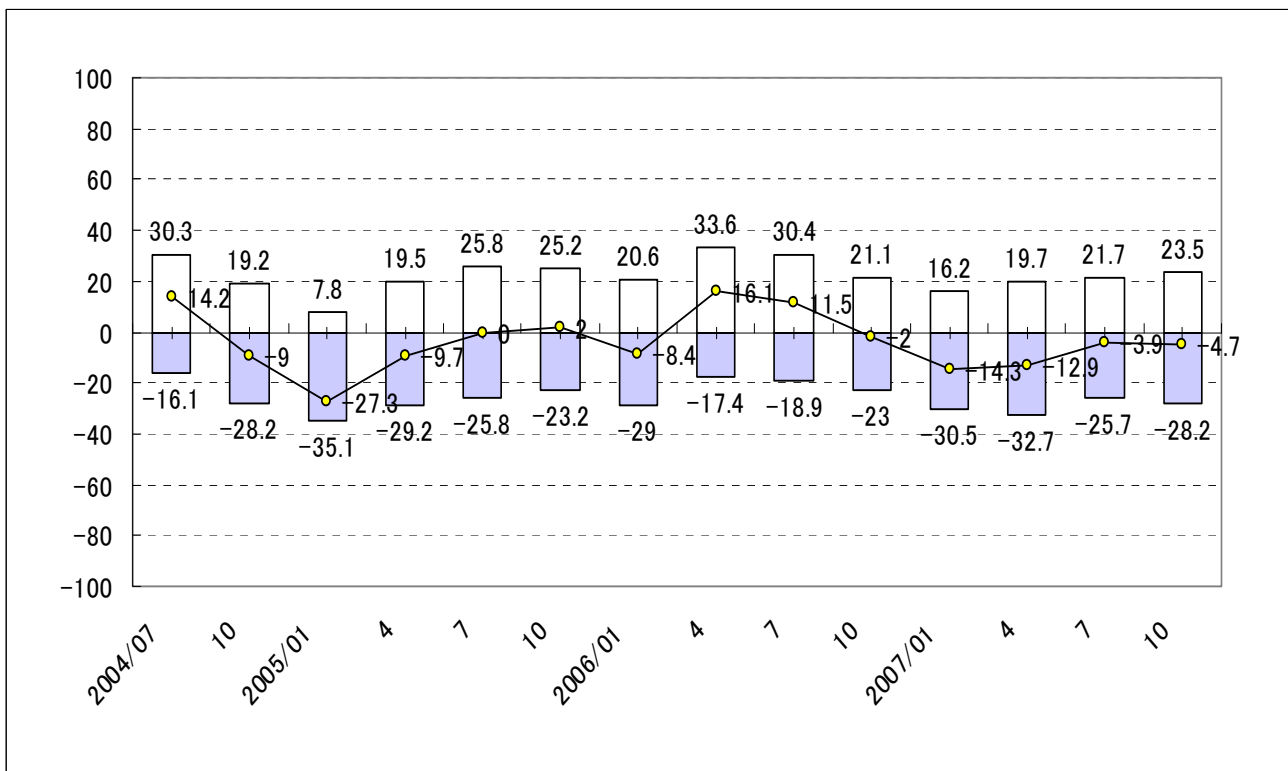
表-3

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答 企業	増加	不変	減少	DI	回答 企業	増加	不変	減少	DI	回答 企業	増加	不変	減少	DI	
製造業	149	23.5	48.3	28.2	-4.7	148	20.9	36.5	42.6	-21.6	146	16.4	57.5	26	-9.6	
規 模	1~29人	71	15.5	54.9	29.6	-14.1	70	15.7	37.1	47.1	-31.4	69	15.9	53.6	30.4	-14.5
	30~99人	49	26.5	40.8	32.7	-6.1	49	24.5	32.7	42.9	-18.4	49	16.3	61.2	22.4	-6.1
	100~人	29	37.9	44.8	17.2	20.7	29	27.6	41.4	31	-3.4	28	17.9	60.7	21.4	-3.6
中 分 類	金属製品 製造業	17	17.6	41.2	41.2	-23.5	17	11.8	35.3	52.9	-41.2	17	17.6	52.9	29.4	-11.8
	一般機械 器具製造業	42	19	50	31	-11.9	41	22	29.3	48.8	-26.8	40	15	65	20	-5
	電気機械 器具製造業	29	20.7	41.4	37.9	-17.2	29	10.3	37.9	51.7	-41.4	28	17.9	50	32.1	-14.3
	輸送用機械 器具製造業	15	40	53.3	6.7	33.3	15	46.7	40	13.3	33.3	15	20	66.7	13.3	6.7
	精密機械 器具製造業	19	26.3	57.9	15.8	10.5	19	26.3	42.1	31.6	-5.3	19	5.3	68.4	26.3	-21.1

製造業の受注状況DIの推移

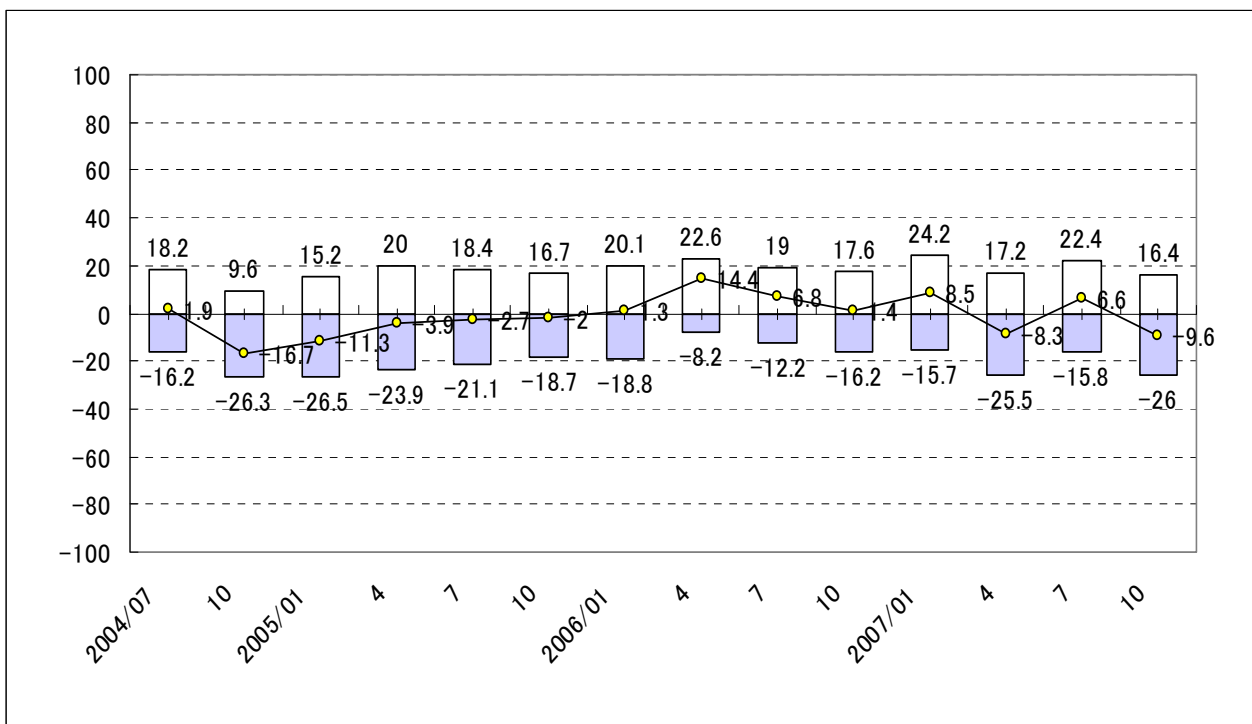
● 全社：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-4



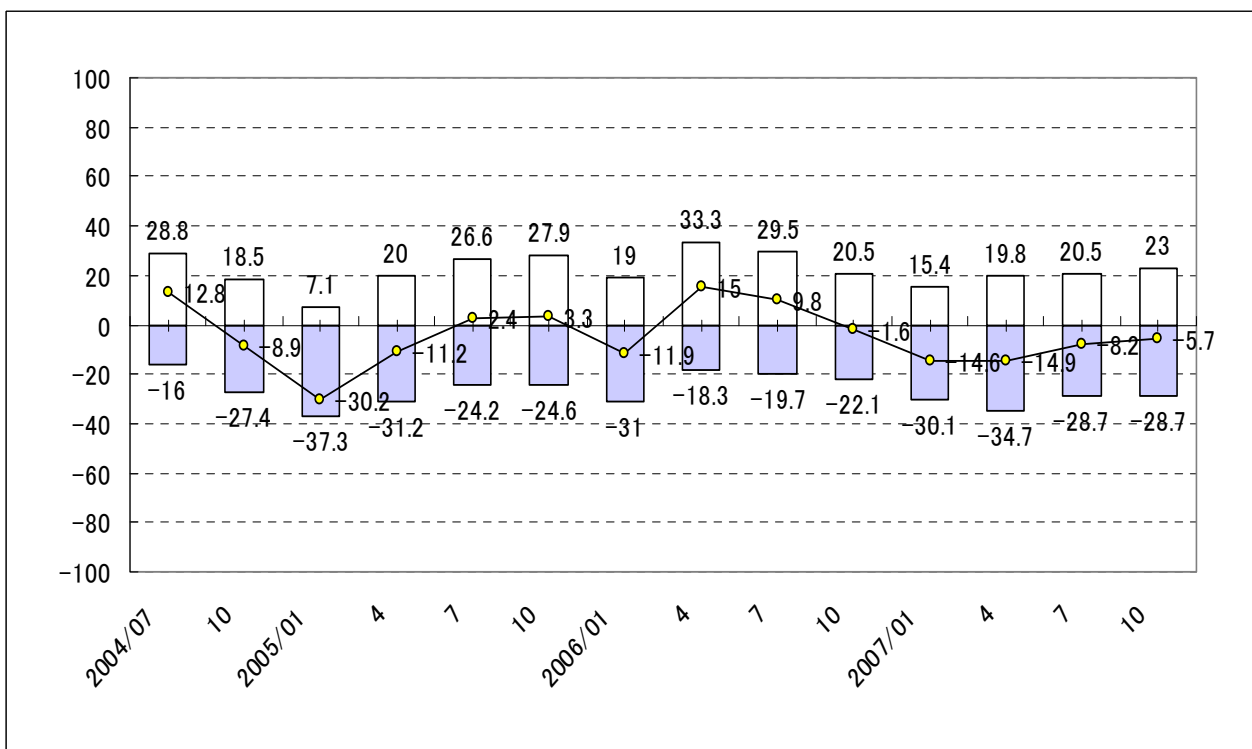
●全社：「3ヶ月後」の予想

グラフー5



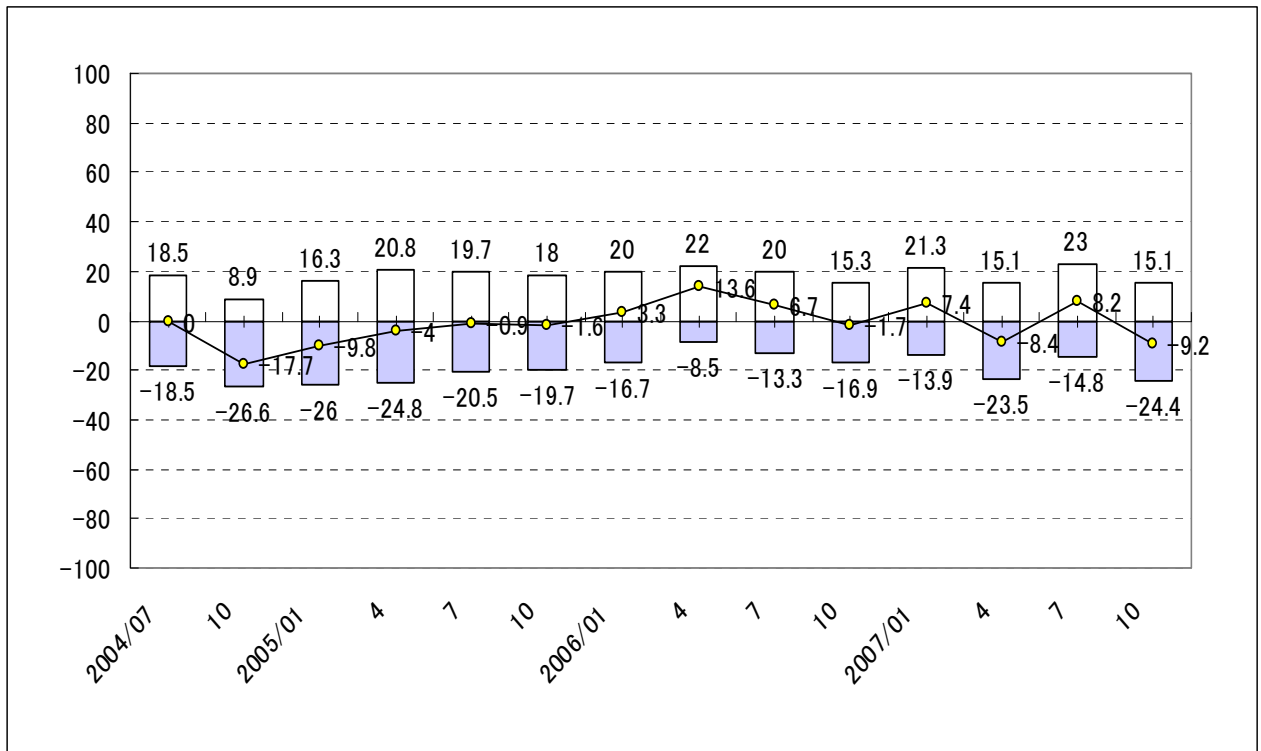
●主要5業種：「3ヶ月前」と比べて

グラフー6



●主要5業種：「3ヶ月後」の受注予想D Iの推移

グラフー7



2. 商業・観光サービス業

①商業

諏訪地方は10月中旬まで高温多照の天候が続き、季節商品とりわけ秋の婦人衣料に影響がみられた。生鮮食料品などの食料品は、需要に変化は少なく来店客が増えた店舗もみられたが、客単価は低下しており売上げは伸びていない。家電店では、運動会や行楽シーズンを迎えビデオカメラ、デジタルカメラなど売行き好調な商品がみられた。総体では、客単価の低下により売上げが減少した店舗があることなどから、業況判断DIは△5.9となり3ヶ月前に比べ業況が後退した企業が多い。

- 食料品 生鮮3品は価格競争が激しく、客単価は低下している。来店客数は増えているが購入点数が伸びないため、売上げが前年割れのところみられる。
- 衣料品 残暑が長く、秋物の高級婦人服などへの影響が大きかった。例年との気温の差が大きく、季節にあった品揃えなどで難しさがあって売行きは低調だった。
- ホームセンター 園芸資材や生活関連商品の売行きは堅調であった。
- 大型家電店 薄型TVは引き続き順調な売行きをみせており、運動会シーズンを迎えビデオカメラなども堅調であったが、暖房器具の出足は鈍くなっている。

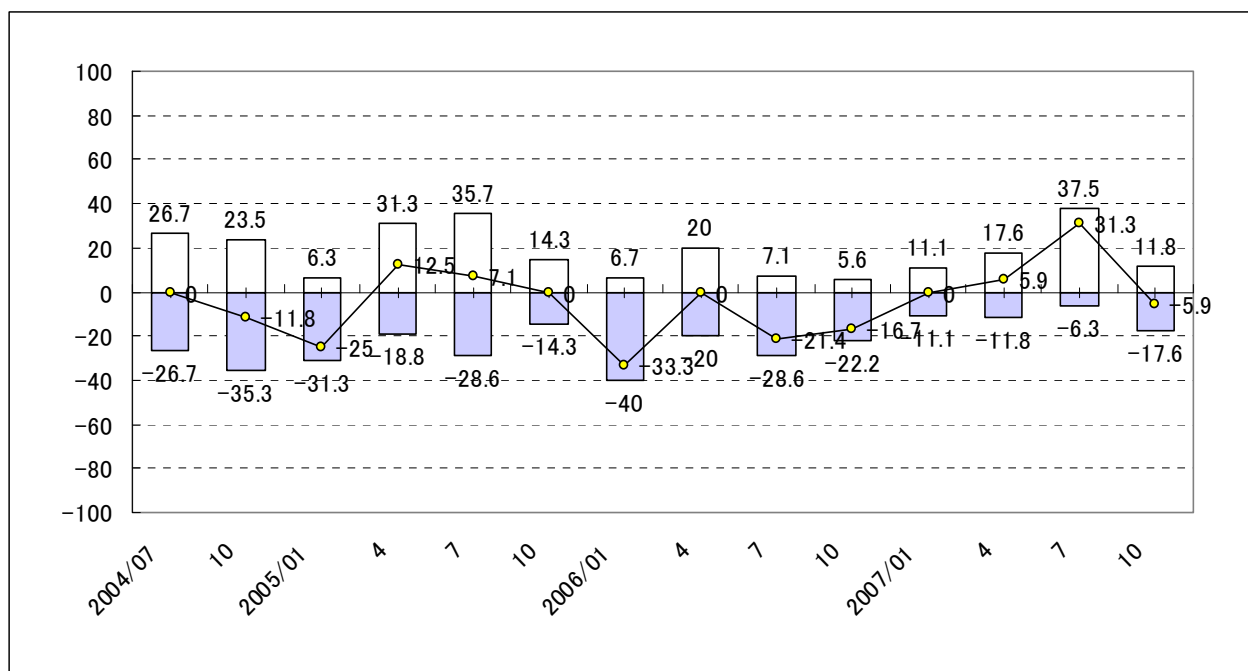
業況、客単価、来店客数

表-4

業況	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	17	11.8	70.6	17.6	-5.9	17	23.5	47.1	29.4	-5.9	17	5.9	64.7	29.4	-23.5
客単価	17	5.9	52.9	41.2	-35.3	17	5.9	47.1	47.1	-41.2	17	5.9	58.8	35.3	-29.4
来店客数	17	35.3	47.1	17.6	17.6	17	35.3	41.2	23.5	11.8	17	17.6	52.9	29.4	-11.8

●商業全社の業況判断DIの推移：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-8



②観光・サービス業

本格的な秋の観光シーズンを迎えた。天候に恵まれ、NHK大河ドラマ「風林火山」効果もあり各観光地は入り込み客で賑わった。宿泊客が増加したことから、「3ヶ月前比」の業況判断DI 10.0、宿泊客数DI 10.0 と前回調査時に続き業況は順調なところが多くなっている。ただし、客単価DIは「3ヶ月前比」△20.0、「前年同期比」△10.0 と付加価値向上による客単価上昇が課題となっている。

上諏訪温泉の10月の宿泊客数は、3ヶ月前に比べ10%～15%増加したところが多く、豪雨災害があった昨年に比べても10%～30%程度増加したところが多い。ただし、「風林火山」の放送終了後の取り組みが課題としているところが多い。

白樺湖・蓼科・霧ヶ峰方面は、入り込み客が多く賑わいをみせたが、宿泊客数はホテル・旅館により増加、減少区々となっており、総体では「3ヶ月前比」横這となっている。

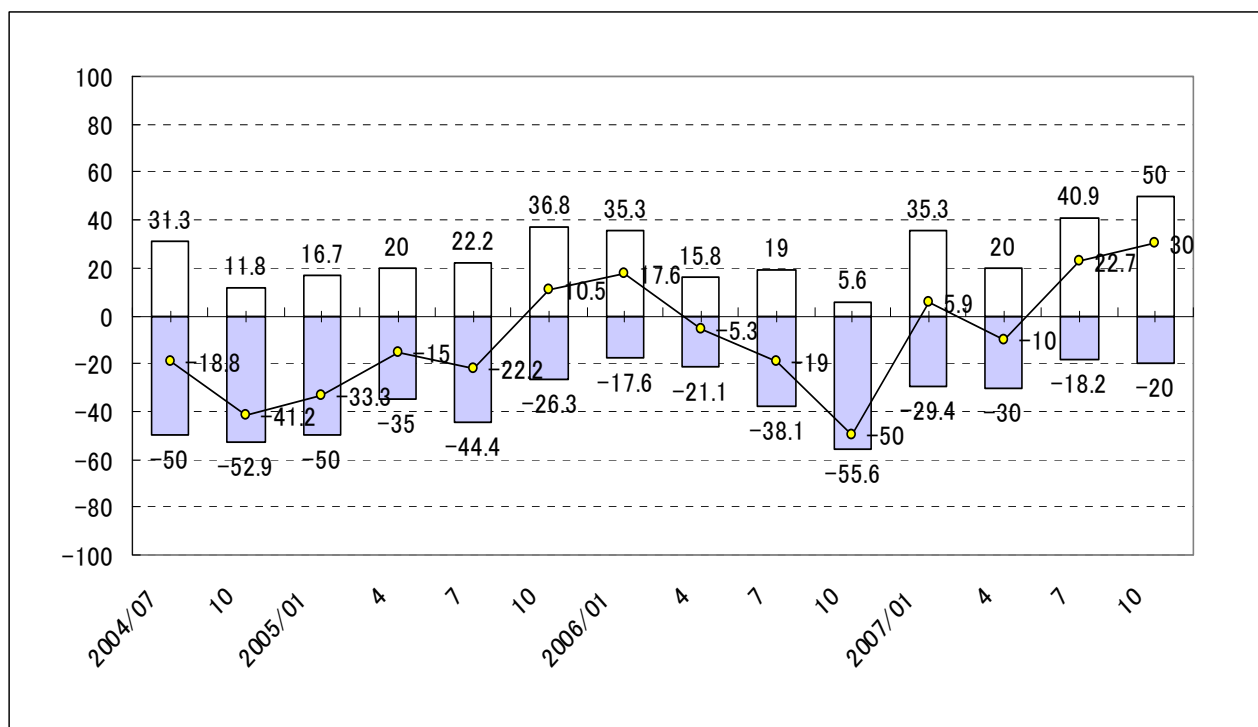
業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	20	30	50	20	10	20	50	30	20	30	20	10	50	40	-30
客単価	20	15	50	35	-20	20	15	60	25	-10	20	10	45	45	-35
宿泊客数	20	40	30	30	10	20	65	10	25	40	20	20	30	50	-30

●観光・サービス業全社の業況判断DIの推移：「前年同期」と比べて

グラフ-9



3. 建設業

業況判断DIは、「横這」とする企業が最も多いものの前回調査比 1.0 ポイント改善し△6.7 となった。「3ヶ月後」の業況予想DIは 0.0 で 73.3%の企業が「横這」とみており、依然業界を取り巻く環境は厳しいものが見られる。

土木工事は、平成 18 年 7 月豪雨災害の復旧工事が完工時を向かえており、新規大型事業が少ないことから各社とも受注量の確保に苦慮している。建設工事は、建築確認申請の厳格化から審査日数が長期化しており対応に苦慮しているところもみられる。総体では大型案件が少なく、個人住宅等の小口工事で価格競争となっており、受注が増加するも収益性が改善しないとの声が多い。

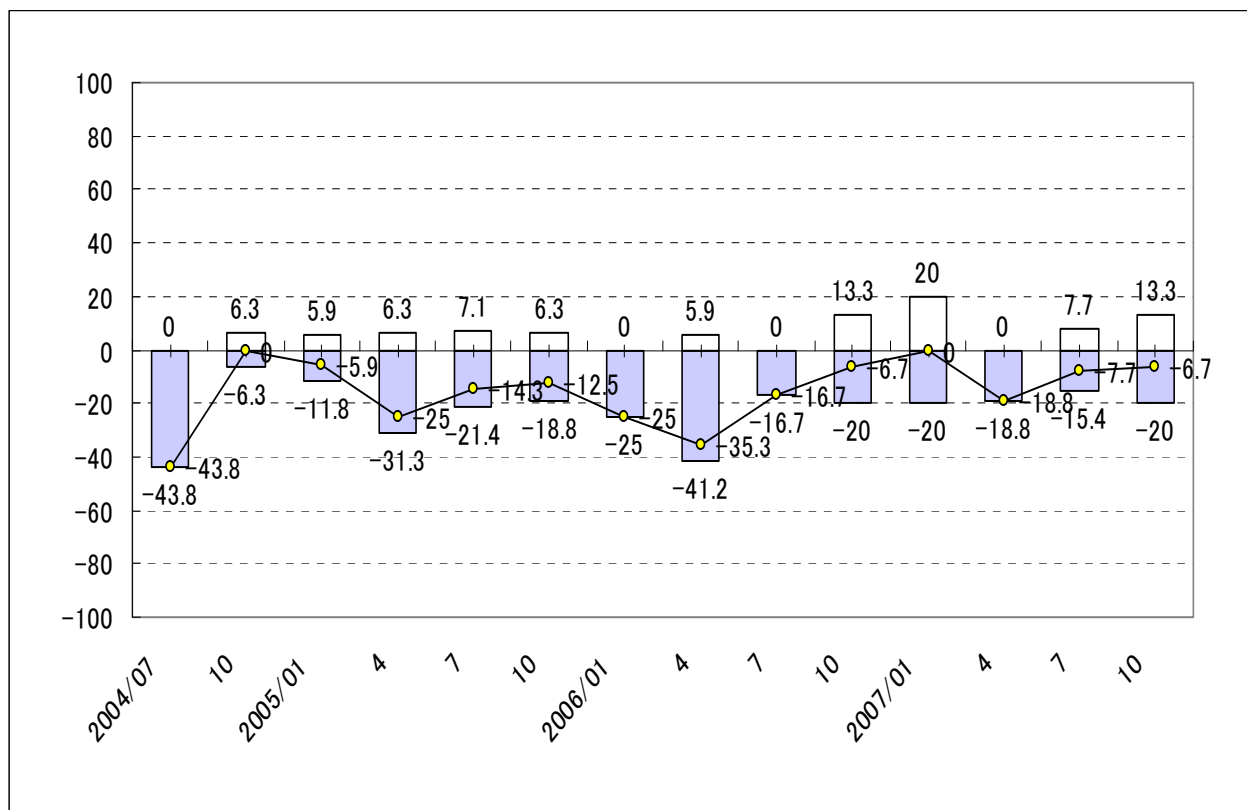
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	15	13.3	66.7	20	-6.7	15	13.3	60	26.7	-13.3	15	13.3	73.3	13.3	0
受注状況	15	20	33.3	46.7	-26.7	15	20	26.7	53.3	-33.3	15	26.7	46.7	26.7	0
外注発注量	15	20	46.7	33.3	-13.3	15	13.3	26.7	60	-46.7	15	26.7	40	33.3	-6.7

●建設業全社の業況判断DIの推移：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-10



4. 収益性状況

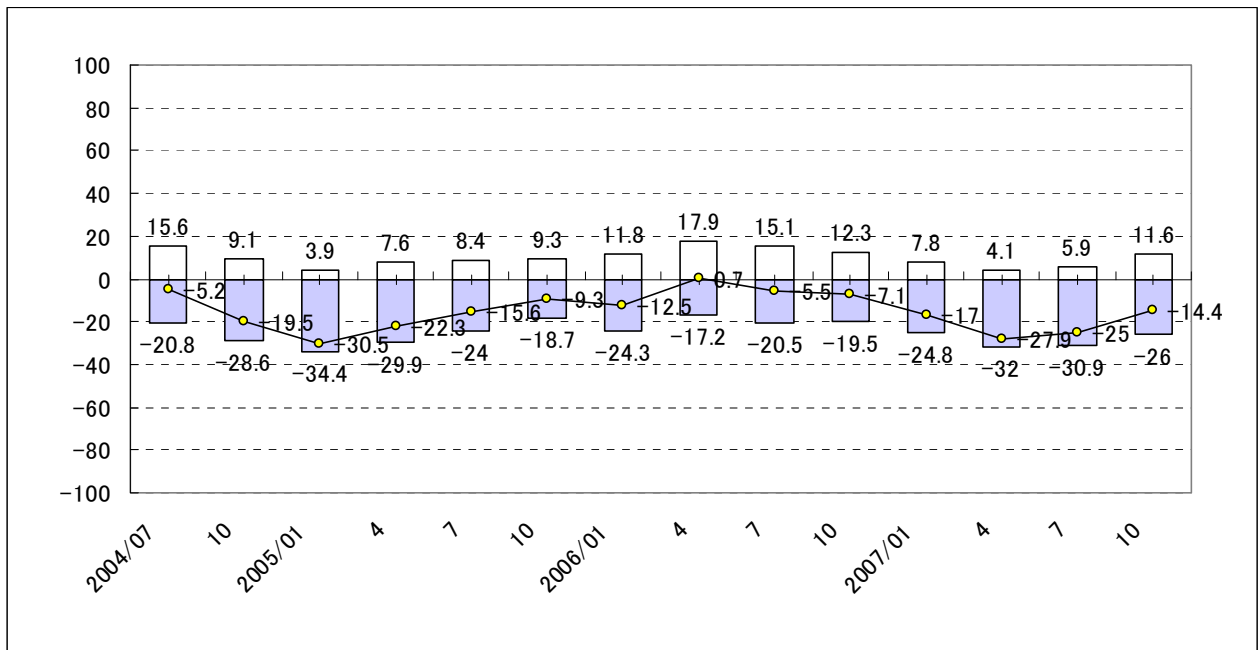
回答全社の収益性D Iは、依然水面下にあるが前回調査比 6.1 ポイント改善し△11.6となった。

製造業の収益性D Iは△14.4 と前回調査比 10.6 ポイント改善されたが依然水面下にあり、企業規模により大きな差がみられる。「100人以上企業」では収益性が好転した企業が 17.9%みられるが、「29人以下企業」では 29.0%の企業の収益性が悪化している。

非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の収益性D Iは前回調査時の 3.9 から△3.8 と再びマイナスとなった。観光・サービス業では収益性が好転した企業が多いものの、商業では収益性が悪化した企業が 35.3%みられた。

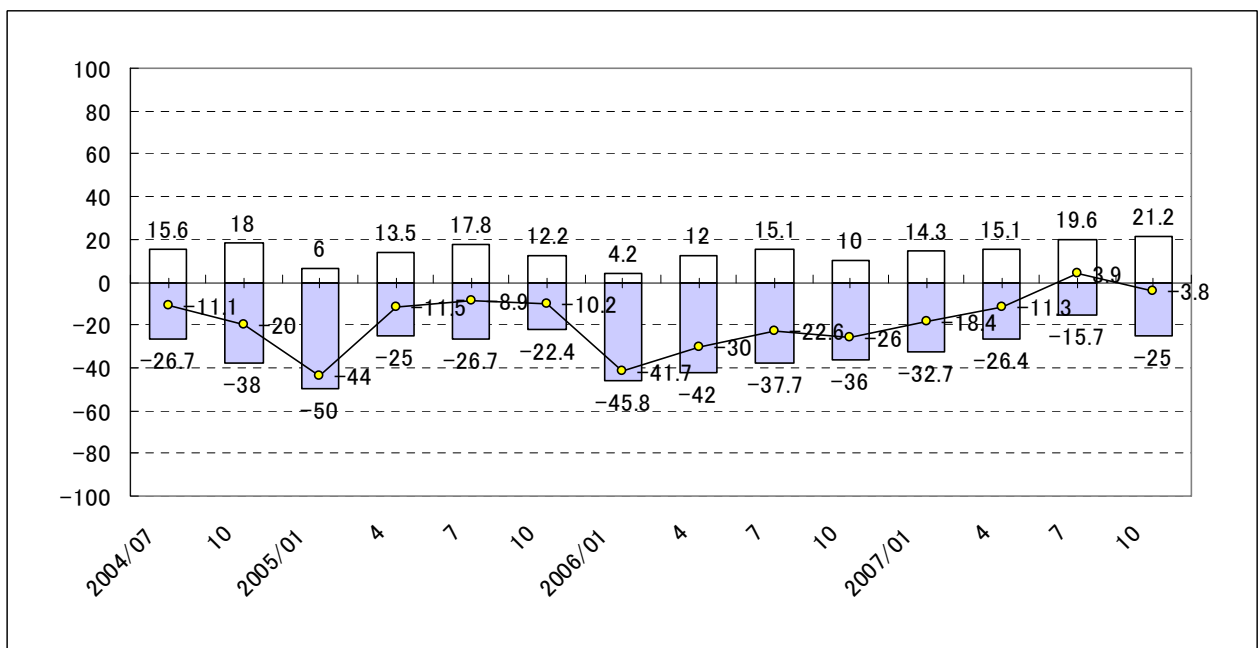
●製造業の収益性D I：3ヶ月前と比べて

グラフー11



●非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の収益性D I：3ヶ月前と比べて

グラフー12



5. 経営上の課題

経営上の課題として、①製造業は売上減少、単価引下げ、競争激化をあげる企業が多く、②商業は売上減少、競争激化、人件費、③建設業は競争激化、売上減少、④観光・サービス業は売上減少、労働力確保、単価引下げをあげている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	92	65	10	8	9
単価引下げ	57	44	2	4	7
競争激化	62	37	7	12	6
資金繰り	32	21	3	3	5
人件費	36	24	7	0	5
労働力確保	37	23	5	1	8

6. 諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比
有効求人倍率【9月】	諏訪公共職業安定所管内	1.40 倍	+0.14 ポイント
	岡谷公共職業安定所管内	1.67 倍	+0.13 ポイント
手形交換高【10月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	13,761 枚	△766 枚
	金額	20,124 百万円	+420 百万円
うち不渡り発生状況	枚数	13 枚	+13 枚
	金額	23,769 千円	23,769 千円
車庫証明取扱件数【10月】 (諏訪・岡谷自家用自動車協会管内)		1,205 件	△10.4 %
新設住宅着工件数(H19.4~H19.9) (諏訪地方事務所管内)		834 件	△27.9 %

7. 調査概要

- 調査期間 平成 19 年 10 月末
- 調査内容 「平成 19 年 10 月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想
- 調査方法 アンケート調査及びヒアリング調査
- 対象地域 諏訪地域全域
- 業種 製造業、商業（大型店：売り場面積 501 m²以上）、建設業、観光・サービス業
- 回答企業数 201 企業
- 回答率 67.0%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業他	合計
依頼数	225	30	22	23	300
回答数	149	17	15	20	201